

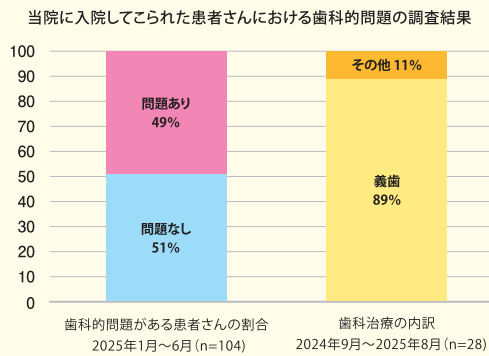


数字でみる錦海リハ

義歯を作ろう！直そう！

2025年1月～6月に入院された患者さんは104人であり、そのうちの49%が噛み合わせの無い方、義歯の不具合がある方でした。またその期間を含む過去1年間の歯科往診による治療内容は89%が義歯の新製または修理でした。

合わない義歯を使用していると、歯茎が傷ついたり、発音の際に支障がでたり、時には顎関節症を引き起こすこともあります。また噛み合わせが無くそのままにしていると、残っている歯に負担がかかり、歯のぐらつきの原因になります。噛み合わせがある部分ばかりに力がかかりすぎてしまい、顎のズレや、バランスの悪さから、首・肩の筋肉に緊張が起こり、肩こりなど誘発してしまう場合があります。嚥下のリハビリにも影響をきたしますので元気なうちに歯や義歯を良い状態にしておきましょう。



専門雑誌・書籍掲載

橋本圭司(医師・副院長)
外来診療からみた回復期リハビリテーションへの期待
Jpn J Rehabil Med, 日本リハビリテーション医学会, 2025.06
橋本圭司(医師・副院長)、他
Information and Communication Technology as an effective screening tool for poor visuospatial cognitive function detection in infants with low birth weight
Showa Med Univ J, 昭和医科大学, 2025.09
橋本圭司(医師・副院長)
発達過程で生じた高次脳機能障害の特徴と対応
精神医学, 医学書院, 2025.09

外部講演

上村順一(理学療法士)
フレイルの原因と対策
アクティブシニア健康教室、米子市中央隣保館主催、2025.04.17、米子市
上村順一(理学療法士)、角田賢(医師・病院長)
災害リハビリテーション～重要性と今後の課題～
第17回山陰摂食嚥下研究会、山陰摂食嚥下研究会主催、2025.05.11、松江市
高齢者の認知機能と生活習慣
アクティブシニア健康教室、米子市中央隣保館主催、2025.05.15、米子市
北山朋宏(作業療法士・リハビリ技術部課長)
2025年4月スタート 生涯学習制度について
令和7年度鳥取県作業療法士会総会後研修会、鳥取県作業療法士会主催、2025.05.25、オンライン
橋本圭司(医師・副院長)
高次脳機能障害の子ども『コージー』
高次脳機能障害者と家族の会 講演会、高次脳機能障害者と家族の会主催、2025.06.01、東京・オンライン
田村篤人(言語聴覚士)
失語症者への派遣
障害者差別解消法に係る薬種別研修会、鳥取県福祉保健部主催、2025.06.05、米子市
上村順一(理学療法士)
介護保険のしくみとサービス内容
アクティブシニア健康教室、米子市中央隣保館主催、2025.06.19、米子市
藤井春美(看護師・副院長)
「人材管理Ⅰ」-人材管理の基礎知識-
認定看護管理者ファーストレベル教育課程研修、鳥取県看護協会主催、2025.06.28、倉吉市
田村篤人(言語聴覚士)
失語症概論
失語症患者向け意思疎通支援者養成研修アドバンスコース、山陰言語聴覚士協会主催、2025.07.06、鳥取市
川上紘司(作業療法士)
作業療法生涯教育概論
現職者共通研修会、鳥取県作業療法士会主催、2025.07.12、オンライン
上村順一(理学療法士)、遠藤美紀(理学療法士・リハビリ技術部主任)
アドバンスドケアプラン「人生会議」
アクティブシニア健康教室、米子市中央隣保館、2025.07.17、米子市
北山朋宏(作業療法士・リハビリ技術部課長)
職業倫理
令和7年度前期現職者共通研修会②、鳥取県作業療法士会、2025.07.26、オンライン
濱崎喬之(言語聴覚士)
吃音支援の実際
令和7年度第1回鳥取県通級指導担当研修会言語部、鳥取県学校教育研究会特別支援教育部会主催、2025.07.30、米子市
田村篤人(言語聴覚士)
失語症者への派遣
鳥取県庁職員向けあいさポーター研修会、鳥取県福祉保健部主催、2025.07.30、鳥取市
星山望(作業療法士)
在宅でのリハビリテーション
在宅医療推進のための看護師育成プログラム「Ⅲ訪問看護能力強化コース選択講義」、鳥取大学医学部附属病院主催、2025.08.05、米子市
佐藤勝之(言語聴覚士)
聞こえのフレイルと山陰地域での取り組み
言語聴覚の日記念講話、北海道言語聴覚士会主催、2025.08.06、オンライン
畠山亮太(言語聴覚士)
意思疎通支援者とはなにか／意思疎通支援者の心構えと倫理
令和7年度鳥取県失語症者向け意思疎通支援者養成研修、鳥取県主催、2025.08.17、米子市
田村篤人(言語聴覚士)
失語症概論
コミュニケーション支援技法Ⅰ
失語症患者向け意思疎通支援者養成研修、山陰言語聴覚士協会主催、2025.08.17、米子市
木嶋恵美(管理栄養士)
在宅療養を支援する仕組みについて
在宅医療・介護連携事業に係る研修会「多職種で取り組む自立支援」、米子市長寿社会課主催、2025.08.21、米子市

上村順一(理学療法士)、遠藤美紀(理学療法士・リハビリ技術部主任)
これまでのまとめ
アクティブシニア健康教室、米子市中央隣保館主催、2025.08.21、米子市
橋本圭司(医師・副院長)
高次脳機能障害～子どもから高齢者まで～
2025年度第1回鳥取県社会福祉士会西部地区研修会、鳥取県社会福祉士会主催、2025.08.23、米子市
橋本圭司(医師・副院長)
高次脳機能障害者のリハビリテーション
回復期セラピストマネージャーコース第15期、回復期リハビリテーション病棟協会主催、2025.08.25、東京都・オンライン
濱崎喬之(言語聴覚士)
ことばの発達を促す声かけの方法
キッズタウン子育て支援センター 育児講座、キッズタウン子育て支援センター主催、2025.08.26、米子市
井後雅之(医師・名誉院長)、西田萌音(言語聴覚士)、足立晃一、益田悠紀(理学療法士)、西垣美紅、桐原千賀子(作業療法士)、花本知果(社会福祉士)
自動車運転再開支援を行なった下肢優位感覚鈍麻を伴う脳出血後右不全麻痺の1例
橋本圭司(医師・副院長)
高次脳機能障害への対応法ー子どもから高齢者までー
第34回鳥取県西部脳卒中シームレス会議、鳥取県西部脳卒中シームレス会議・第一三共株式会社共催、2025.09.03、米子市
川上紘司(作業療法士)
コミュニケーション支援技法Ⅱ実習等
失語症者向け意思疎通支援者養成研修、山陰言語聴覚士協会主催、2025.09.07、鳥取市
永岡直充、松原岳洋(理学療法士)
失語症を呈する対象者の身体介助
令和7年度 鳥取県失語症者向け意思疎通支援者養成研修、鳥取県主催、2025.09.14、米子市
濱崎喬之(言語聴覚士)
ことばの発達について考えてみよう
にこ☆にこタイム、新聞子育て支援センターCHUCHU にこ☆にご主催、2025.09.18、米子市
橋本圭司(医師・副院長)
高次脳機能障害と発達障害(神経発達症)の支援と現状について～共通しているところ、違っているところ～
2025年度富山高次脳機能障害リハビリテーション講習会、富山高次脳機能障害支援センター主催、2025.09.27、富山県

学会発表

川上紘司(作業療法士)
当院の訪問リハビリテーションと通所リハビリテーションとでの合同でのリハビリテーション会議の取組みについて
生田陽介(作業療法士・リハビリ技術部主任)
新規利用者紹介元からみた当通所リハビリテーションの傾向と課題
第50回 全国デイクア研究大会2025 in 川越、2025.06.27-28、埼玉県
濱崎喬之(言語聴覚士)
回復期リハビリテーション病院における言語聴覚療法に特化した小児外来リハビリテーションの取り組みと地域連携
北山朋宏(作業療法士・リハビリ技術部課長)
VRリハビリテーションにて動作および言語化に改善が認められた症例の一考察
永岡直充(理学療法士)
回復期リハビリテーション病棟における脳血管疾患を持つ症例の歩行自立度と体幹機能との関係
第75回日本病院学会、2025.07.24-25、長崎県
永岡直充(理学療法士)
脳血管疾患を持つ症例における退院時の日常生活動作および体幹機能を含めた身体機能と拘束性換気障害の有無による差異
第47回日本呼吸療法医学会学術集会、2025.08.30-31、大阪府
杉原健太郎(理学療法士)
通所リハビリテーション利用者1例に対する、スマートウォッチを用いたサービス提供時間外の生活把握
第23回日本臨床医療福祉学会、2025.09.26-27、秋田県

※氏名、職員の肩書きは掲載、開催時点のものであり現在に変更があります。

診療方針：わたしたちは
回復期リハビリテーション医療と地域連携を通して
患者さんの社会参加を支援します。

錦海リハビリテーション病院

〒683-0825 鳥取県米子市錦海町3-4-5
TEL 0859-34-2300 [代表]
FAX 0859-34-2303



KINKAI NEWS

REHABILITATION
HOSPITAL



錦海リハビリテーション病院ニュース

発行：社会福祉法人こうほうえん 錦海リハビリテーション病院

TEL：0859-34-2300 [代表]
E-mail：kinkai-hp@kohoen.jp
URL：https://www.kinkai-rehab.jp

2025
VOL.22



SPECIAL 最前線 1

錦海リハビリテーション病院

来年2月6日・7日に 回復期リハビリテーション病棟協会 第47回研究大会in米子を開催します

大会テーマに込めた思い 「地域のなかの回復期 地域のための回復期」

いよいよ回復期リハビリテーション病棟協会第47回研究大会in米子の開催が迫ってきました。昨年の札幌大会から1年、札幌程ではないにしろ、2月の山陰も雪がどうなるか、交通機関は大丈夫なのか、など心配事は尽きませんが、来てくださる皆さんにとって役に立つ大会を目指し、準備を進めているところです。

今回の大会テーマは「地域のなかの回復期 地域のための回復期」としました。回復期リハビリテーション病棟は2000年、介護保険とともにスタートしました。要介護となる主たる原因となる脳卒中と大腿骨頸部骨折等の患者さんのADL

向上と在宅復帰を目指して作られて25年が経過、我々を取り巻く状況はどんどん変わってきました。昨年の「新たな地域医療構想等に関する検討会」では病床機能報告ではこれまでの回復期機能が包括期機能に名称が置き換えられることになったことに加え、新たに医療機関機能報告が創設され、この中の専門等機能の一つとして集中的なリハビリテーションが含まれており、回復期リハビリテーション病棟の地域医療構想の中での立ち位置が変化して来ていると感じざるを得ません。



回復期リハビリテーション病棟協会第47回研究大会in米子 プレ講演会での角田賢病院長の挨拶

住み慣れた地域で最期までその人らしく暮らすことを 目指し、支援する

「住み慣れた地域で最期までその人らしく暮らす」ことが地域包括ケアシステムが目指す姿ですが、そもそも脳卒中などで障害をもった患者さんがこの理想を実現するには、地域の中で救急医療を担う急性期医療機関や退院後の生活をサポートする生活期の各施設と密接に連携することが重要です。そして回復期で働く我々が住み慣れた家に帰さなければ始まりません。我々の働く回復期は地域のなかにしか存在せず、そして地域のために存在するべきなのではないでしょうか。

私が大学卒業後勤務していた関西から生まれ育った山陰の地に戻ったのは2000年4月、偶然にも回復期リハ病棟がスタートしたのと同じでした。あれから25年、次の25年も回復期が地域に貢献し続ける存在でありたいと思っています。

社会福祉法人 こうほうえん
錦海リハビリテーション病院
病院長 角田 賢
(回復期リハビリテーション病棟協会第47回研究大会in米子 大会長)

全国研究大会 What's New!?

回復期リハビリテーション病棟協会第47回研究大会in米子
会期：2026年2月6日(金)～7日(土)
会場：米子コンベンションセンターBIGSHIP・米子市文化ホール
参加見込人数：2400名

演題登録期間：
7月1日(火)～9月30日 10月31日(金)正午まで延長しました
参加登録を開始しました！

前期参加登録：10月1日(水)～2025年12月20日(土)
後期参加登録：12月21日(日)～2026年2月5日(木)
詳細は研究大会ホームページをご確認ください。



SPECIAL 最前線 2

病院機能評価を更新受審しました
～さらなるリハビリテーション医療の質向上を目指して～

より高い水準が求められる
「高度・専門機能 リハビリテーション（回復期）」も
同時に受審し続けています

去る2025年6月25日（水）から27日（金）の3日間にわたり、当院は公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価の更新審査（現地調査）を受けました。当院が初めて機能評価を受審したのは2015年。以来、質の高いリハビリテーション医療を追求する羅針盤としてこの評価制度を積極的に活用し、今回で3度目の受審となります。当院の特徴は、初受審時から一貫して、基本的な機能（本体審査）に加え、より高い水準が求められる「高度・専門機能 リハビリテーション（回復期）」も同時に受審し続けている点にあります。



訪問審査終了後のサーベイヤーによる講評と意見交換の様子



審査当日のケアプロセス調査にて、対象症例の入院から現在に至るまでの流れに沿って、リハビリテーション・ケアの実践状況を説明している様子

私たちが最も大切にしているのは、審査に合格することそのものではなく、評価を通じて医療の質を改善し続ける文化を醸成することです。院内に設置された「病院機能評価チーム会」を中心に、特定の部署だけでなく全職員が一丸となり、日々の業務の中に評価機構が示す質の高い医療のあり方を浸透させる取り組みを継続してきました。受審直前に慌てて準備をするのではなく、日常業務の延長線上に審査があるという姿勢こそが、私たちの強みであると自負しております。審査当日は計6名のサーベイヤー（評価調査者）をお迎えし、書類確認や各部署の視察、職員へのインタビューなどを通じて、当院の取り組みを客観的に評価していただきました。今回の審査でいただいたご指摘や評価を真摯に受け止め、今後も改善活動を継続し、患者さんやご家族により一層信頼される病院を目指してまいります。なお、最終的な評価結果は本年10月以降に通知される予定です。改めてご報告させていただきます。

SPECIAL 最前線 3

リハビリテーション技術部の紹介
歯科衛生士のお仕事

病院における歯科衛生士の役割

当院は日本リハビリテーション病院・施設協会より医科歯科連携拠点病院として認められ、歯科との連携に力をいれています。現在、歯科衛生士は1配属されています。歯科衛生士というと、多くは歯科医院に勤めています。当院のようなリハビリ病棟に配属される病院は徐々に増えてきましたが、全国的にはまだ珍しいようです。歯科衛生士の専門性を活かし、様々な職種と連携して口の衛生のみならず「食べる支援」を行っています。



リハビリ病棟でのお仕事

新規で入院された患者さんには口腔内評価を行い、専用のカメラで口腔内写真を撮影します。その写真をもとに、口腔ケアのポイントを患者さんと職員と確認し、早期に口の衛生を高めています。義歯が合わなくなり嚥下障害をもたらしている患者さんについては、言語聴覚士と協働し提携する歯科医師へ情報を送り、歯科往診を依頼します。病気の影響により自分で口腔ケアがしにくくなった患者さんには、義歯の着脱やブラッシングの方法について直接指導を行っています。



通所リハビリでのお仕事

通所リハビリテーションきんかいを利用されている方の口腔管理、相談を行っています。嚥下障害や口の機能が低下するおそれのある方は、口腔機能向上に向けて口の体操やトレーニングを提案し実施しています。

TOPICS
01

防犯訓練を実施しました

2025年6月5日（木）に当院にて米子警察署のご協力のもと、不審者の侵入を想定した防犯訓練を実施いたしました。不測の事態に備え、患者さんと職員の安全確保に努めることを目的に実施し、参加した職員一人ひとりが真剣に訓練に取り組みました。訓練では米子警察署の指導のもと、不審者への対応や避難経路の確認、情報共有の手順などを実践的に学ぶことができました。今回の訓練で得られた経験と反省点を活かし、引き続き患者さん、そして職員が安心して過ごせる安全な病院環境の維持に努めてまいります。



防犯訓練の一場面。訓練後、米子警察署からの総評を聞く職員の様子。

TOPICS
03

「脳体カトレーナー CogEvo(コグエボ)」を導入しました

この度、当院副病院長 橋本圭司らが原案・監修し、株式会社トータルブレインケアが開発した、「脳体カトレーナー CogEvo(コグエボ)」を導入しましたのでお知らせいたします。「脳体カトレーナー CogEvo」は、脳のリハビリテーションから生まれた、認知機能のチェックとトレーニングができるエビデンス（科学的根拠）に基づいたクラウドサービスです。日常生活における過度なストレス・疲労・睡眠不足・加齢などによる認知機能の変化を早期にチェックできます。認知機能を「見当識」「注意力」「記憶力」「計画力」「空間認識力」の5つの側面に分類し、個々の認知機能の特性に合わせたトレーニングが可能です。



TOPICS
02

咽頭収縮トレーニングツール「sRED(エスレッド)」を導入しました

新たな嚥下リハビリテーション機器として「sRED」を導入しました。この機器は日本で発売されたばかりのもので、先行するアメリカでは嚥下に関する筋力強化につながったと報告され、有効な訓練法であることが認められています。使用法はとても簡単で、ベルトを首に巻き、空気で適度な圧力をかけることで喉頭（喉仏）の動きに抵抗をかけます。その抵抗に負けないように唾液を飲み込むという、今までにないトレーニング法として注目されています。対象者は自分の意思で唾液が飲み込める方（可能であれば15秒間隔で30回程度）ですので、時々食事でムせて困っているという方に使用できるようになります。最新の機器を取り入れながら、安全に食事を摂っていただけるよう取り組んでいきます。



咽頭収縮トレーニングツール「sRED（エスレッド）」

TOPICS
04

回復期リハビリテーション病棟協会
第47回研究大会in米子
プレ講演会その5・その6開催報告

回復期リハビリテーション病棟協会第47回研究大会in米子のプレ企画として、研究大会の開催案内も兼ねた地域医療従事者向けプレ講演会を開催しました。2025年5月16日には齊藤正身先生を講師に「地域包括ケアシステムからみた回復期リハビリテーション病棟の役割」を、9月20日には大会前最後となるその6を菅原英和先生を講師に「回復期リハビリテーション病棟の現在地と未来 - 成り立ちから課題、そして次のステージへ - 」と題して講演いただきました。両日とも多くの方にご参加いただき、盛況のうちに幕を閉じました。来年2月に行われる本大会も地域のリハビリテーション医療の発展に貢献できるよう、準備を進めてまいります。皆様の参加を心よりお待ちしております。



写真左は、プレ講演会その5の講師 医療法人真正会 霞ヶ関南病院 齊藤正身理事長
写真右は、プレ講演会その6の講師 医療法人社団厚生会 初台リハビリテーション病院 菅原英和病院長